



今年も「オール学習院の集い」に、会員特設ブースを開設いたします。



来る4月16日（日）、春恒例「オール学習院の集い」が開催されます。今年も学習院サポーターズ倶楽部専用ブース（特設テント）を設置いたしますので、ご家族・ご友人もお誘いあわせのうえ、是非お立ち寄りください。皆さまのご来場をお待ちしております。



昨年（2016）ご来場いただいた会員の皆さまを一部ご紹介いたします。

サポーターズ倶楽部会員1,000名に到達しました！

平成18年に発足したサポーターズ倶楽部は、このたび目標としていた会員1,000名に達しました。これもひとえにみなさまのご理解、ご協力のたまものと、深く御礼申し上げます。サポーターの輪がますます広がり大きな力となって、勢いある学習院を末永く支えてくださることを切にお願い申し上げます。

◆ Member's Voice ◆

サポーターズ会員No.1000 末廣 昭 (学習院大学教授/国際社会科学部長)

「学校の事業を支えるのは寄付である という認識がもっと広がってほしい！」 それが入会のきっかけでした。

なぜか日本に根付かない寄付文化

これを見てください。トマ・ピケティの本で『21世紀の資本』という、かなり評判になった本なんです。資本の収益率が経済成長率を上回ると資産は蓄積される。蓄積された資産はどこに行くかという例としてあがっているのが、じつは大学の基金なんです。そのトップにあるのがハーバード大学で300億ドルですから約3兆5000億円ぐらいを基金で持っています。日本の東大は110億円ぐらいですね。これらはすべて寄付なんです。これだけ基金を持っているがゆえに運用利回りが10%を超えています。ですから、海外の大学ではこの基金の利子だけで100年は持つといわれています。それにひきかえ日本では寄付文化が根付いていません。

キリスト教の国々には寄付をする習慣がありますし、私の研究専門分野であるタイにも「パーパー（寄進）」という仏教上の教えがあるのに、なぜか日本にはないんですよ。

真の国際化とは

私の所属する国際社会科学部では、学生全員が海外に留学しなくてはならないのですが、年間約90万円の授業料の他にアメリカ留学だと、1ヶ月に約100万円かかるといわれています。大学として留学を勧めているからには、それなりの支援をしてあげたいのですが、他大学と比較をしても奨学金が少ないというのが現状です。授業料と留学費用を合算すると相当な金額になり、父母保証人の負担は非常に大きいというこ

とを知っていただきたいのです。国際化はコストがかかるということを理解していただき、学習院の国際化事業に対して、多くの方に投資（寄付）をお願いしたいですね。

素晴らしいキャンパス、きわめて強い母校愛

ところで、私は学習院に来てまだ1年ほどなのですが、目白に来た私の友人は広いキャンパスと、緑の豊かさ、駅に近い素晴らしいロケーションにみんなびっくりします。西2号館からは富士山のきれいな姿も見えるし、ほんとうに素晴らしい環境です。多くの方にもっと足を運んでいただき、素晴らしさを知ってほしいですね。母校への特別な想いは他の学校よりきわめて強い、それが学習院ではないかと思えます。



Profile

末廣 昭 (すえひろ あきら)

学習院大学教授/国際社会科学部長

1951年鳥取県出身。76年東京大学大学院経済学研究科修了後、アジア経済研究所、大阪市立大学をへて、92年より東京大学社会科学研究所助教授、95年から教授。2009年～2012年、同研究所所長。91年経済学博士（東京大学）。タイ国チュラロンコン大学客員研究員（81～83年）、紫綬褒章受章（2010年）。『新興アジア経済論』（2014年）など著作多数。

